

地理B 年次末考查問題

実施日時：2021年1月25日（月）第3時限

出題者：加藤 一郎

受考上の注意……よく読んでから解答を開始せよ。

- ☐ 問題は13ページまでである。
- ☐ 解答用紙と地図（国・地形と都道府県・都道府県庁）は問題用紙に挟んである。
- ☐ 作図の問題は、問題用紙の図に書き込んで解答せよ。
- ☐ 解答用紙と地図は問題冊子に挟んで提出せよ。
- ☐ 字数制限のある問題では、句読点も文字数に含む。
- ☐ 不必要なひらがなでの解答や誤字等は減点する。
- ☐ 考查時間中の出題者の巡回はないので、問題に関する疑問は解答用紙にわかるように書け。

今年度の地理Bは、年間を通じて新型コロナウイルスの感染拡大を軸に授業を展開します。どのように感染が拡大していったのか、感染拡大の要因は何かなど、地理的に考察することによってさまざまな知見を得ることができるでしょう。しかし、これらの知見の多くは推察（仮説）に過ぎません。新型コロナウイルス関連の情報はたえず更新されています。私たちが誤った情報や感情的な情報に惑わされないためには、常に情報を更新し、自分の頭で考えるしかありません。そんなとき、地理の授業で養った地理的な見方や考え方は、大いに参考になることでしょう。

* 先日の根本文昭先生の特別授業とC6クラスの屋上巡検のときの集合写真は、地理のホームページからダウンロードできます。個人情報のため、1月末をもって削除しますので、必要人はダウンロードしてください。

<https://seifu.sakura.ne.jp/324/chiri/>



第1問 ルーマニアとヨーロッパの地誌に関する各問に答えよ。(52)

I ルーマニアのコロナ感染状況について確認しよう。(10)

ルーマニアでは2020年2月27日にはじめての感染者が確認され、2021年1月20日現在の累計感染者数は69万7898人である。ルーマニアの人口は1937万人(2019年)であり、人口10万人あたりの累計感染者数は3,603人(日本は269人)にのぼる。

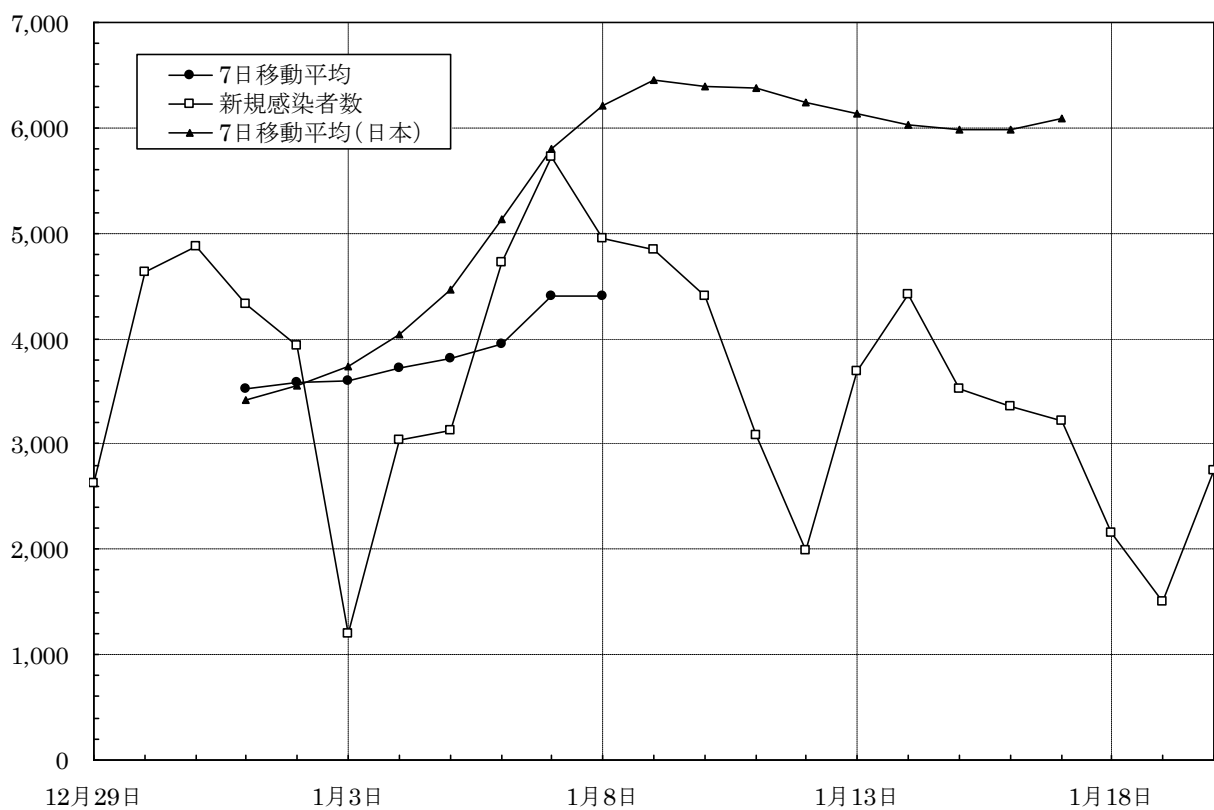
表1

	新規感染者数 (人)	7日移動平均 (人)
12月29日	2,620	
12月30日	4,637	
12月31日	4,875	
1月1日	4,322	3,517
1月2日	3,938	3,590
1月3日	1,194	3,603
1月4日	3,034	3,724
1月5日	3,130	3,814
1月6日	4,729	3,943
1月7日	5,719	4,401
1月8日	4,951	4,408
1月9日	4,841	4,245
1月10日	4,403	4,097
1月11日	3,082	3,912
1月12日	1,987	3,708
1月13日	3,697	3,496
1月14日	4,424	3,327
1月15日	3,525	3,194
1月16日	3,353	3,126
1月17日	3,218	2,990
1月18日	2,156	
1月19日	1,509	
1月20日	2,745	

(日経コロナマップにより作成)

問1 表1は、ルーマニアの2020年12月29日から2021年1月20日までの感染状況についてまとめたものである。表1中の7日移動平均に関する各問に答えよ。(10)

- たとえば、1月1日の7日移動平均は、1月1日と前後それぞれ3日間の新規感染者数を合計して7で割ったものである。1月1日の7日移動平均を求める式を分数で答えよ。(4)
- 次ページの図2中に、1月9日～17日の7日移動平均の折れ線グラフを赤で書き込んで完成させよ。(4)
- 新規感染者数と7日移動平均の折れ線グラフを比べると、7日移動平均の方が変動が小さくなめらかなので、感染状況の()を把握しやすい。空欄にあてはまる語句を漢字2字で答えよ。(2)

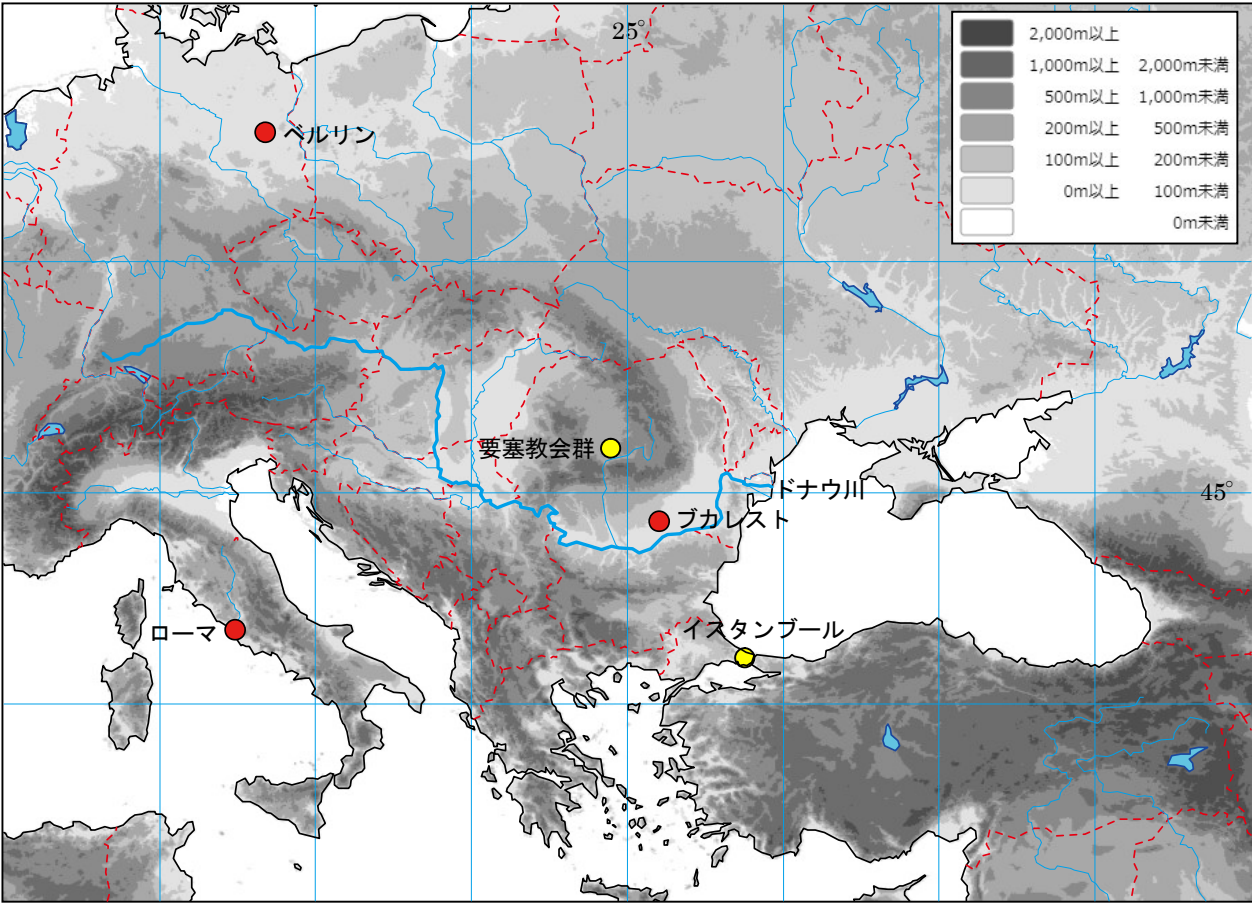


(注) 日本の7日移動平均は、ルーマニアと比較するためのもので、設問とは直接関係しない。

(日経コロナマップにより作成)

図1

Ⅱ ルーマニアを含むヨーロッパ位置と自然環境について考えよう。(12)



(注) ・ 緯線と経線の間隔は5度。
・ メルカトル図法による。
・ イスタンブールはもともと古代ギリシャ人の植民活動によって建設された都市で、4世紀まではビザンティウムとよばれていたが、ローマ帝国末期にコンスタンティノブルに改称された。15世紀半ばにローマ帝国を受け継いだビザンツ帝国がオスマン帝国によって滅ぼされると、さらにイスタンブールに改称された。
(地理院地図・自分で作る色別標高図により作成)

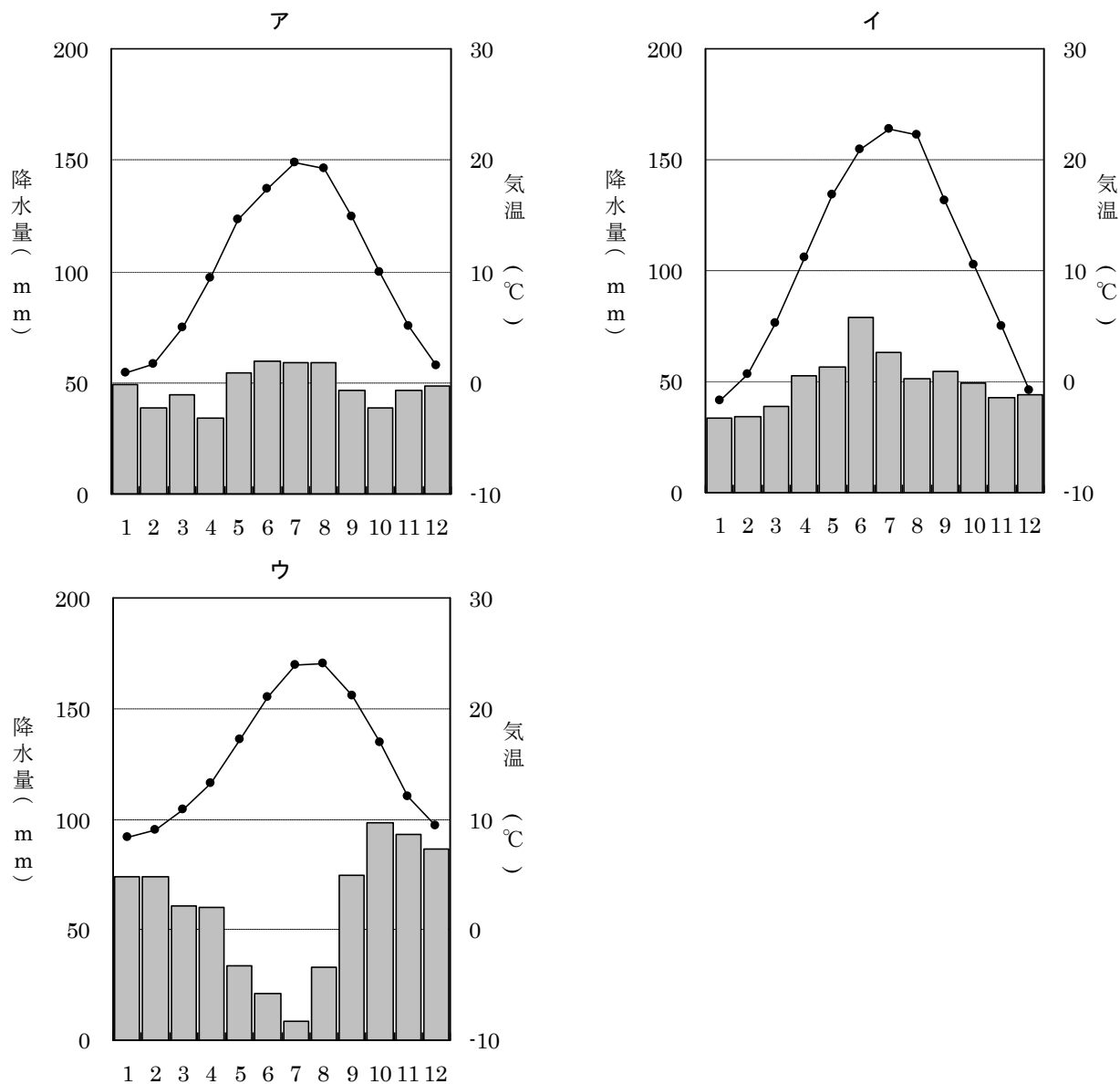
図2

問2 ルーマニアの首都・ブカレストのおおよその緯度と経度は、それぞれ北緯45度・東経25度である。図2の左上隅と右下隅の緯度と経度の組み合わせとして適切なものを選んで答えよ。(4)

	左上隅		右下隅	
	緯度	経度	緯度	経度
ア	北緯35度	東経5度	北緯55度	東経45度
イ	北緯35度	東経45度	北緯55度	東経5度
ウ	北緯55度	東経5度	北緯35度	東経45度
エ	北緯55度	東経45度	北緯35度	東経5度

問3 カルパティア山脈・トランシルヴァニア山脈とアルプス山脈の尾根を、図2中に赤の線ではっきりと記入せよ。ただし、カルパティア山脈・トランシルヴァニア山脈は一本の線で記入するものとする。(4)

問4 ヨーロッパ西部の気候は、アルプス山脈を境に大きく異なる。また、ヨーロッパ東部の気候は、北部と南部で気温の差が大きい。図3は、図2中の三つの都市（ブカレスト、ローマ、ベルリン）のいずれかの雨温図である。三つの都市の気候について説明したあとの文章を参考にして、ブカレストとローマの雨温図にあてはまるものをそれぞれ答えよ。(4)



(気象庁の資料などにより作成)

図3

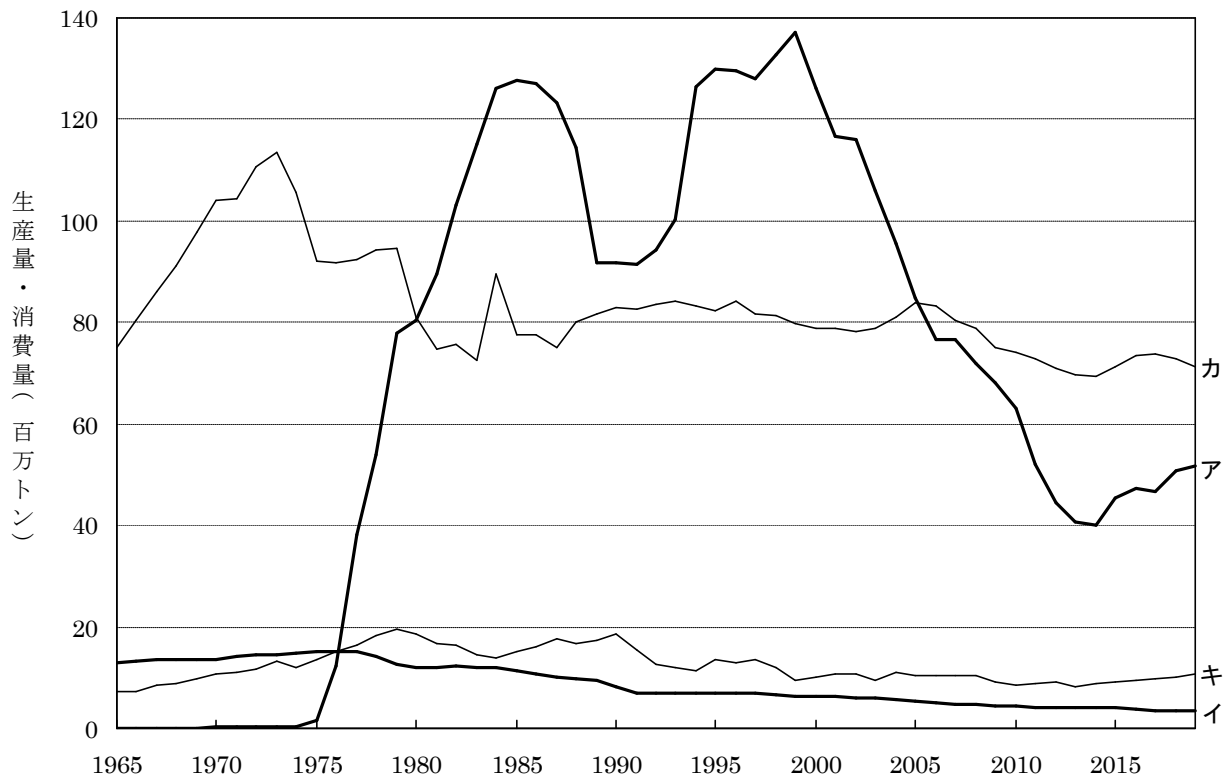
ブカレスト: 最多月降水量は6月、最少月降水量は1月であり、最多月と最少月の差は約50mmである。最寒月平均気温は3都市の中で唯一マイナスであり、気温の年較差(ねんかくさ、寒暖の差)は大きい。

ローマ: 最多月降水量は10月、最少月降水量は7月で、夏に雨が少ないために農業には不向きである。一方で、ローマをはじめ地中海沿岸は夏に晴天の日が続くことから、アルプス山脈以北のヨーロッパ諸国を中心に多くの観光客が訪れる。

ベルリン: アルプス山脈以北のヨーロッパ西部の地域は、偏西風と暖流の北大西洋海流の影響で緯度が高いわりに冬もそれほど低温にはならないが、夏は冷涼であり、ベルリンの最暖月平均気温は20°Cにも達しないため肌寒い。降水量の季節変化は小さく、どの月の降水量も50mm前後である。

Ⅲ ルーマニアを代表する石油産業について考えよう。(4)

問5 図2中のブカレスト北方50kmの地点にあるプロエシュティは、ヨーロッパのなかで早い時期から油田の開発が行われ、19世紀半ばにはすでに原油採掘のための施設と精油所が設置されていたほど古い歴史をもつ。図4はヨーロッパを代表する産油国であるルーマニアとイギリスの原油生産量と原油消費量の推移を示したものであり、折れ線ア・イはどちらかの国の生産量、カ・キは消費量を示している。二つの国の原油生産量・消費量について説明したあとの文章を参考にして、ルーマニアの原油生産量と原油消費量を示した折れ線をそれぞれ選んで答えよ。(4)



(「bp Statistical Review of World Energy June 2020」により作成)

図4

ルーマニア：古くから油田の開発が行われていたこともあり、1970年代半ばまではイギリスよりも生産量が多かったが、原油生産量は減少傾向が続いている。1970年代後半には消費量が生産量を上回ったため、輸入に依存するようになった。

イギリス：1970年代の二度の石油危機によって原油価格が高騰したことから、グレートブリテン島とスカンディナヴィア半島の間の水深の浅い北海で海底油田の開発がさかんになり、1980年代には原油の自給を達成した。しかし、2000年代以降の生産量は減少傾向にあり、2000年代半ばから輸入に依存するようになった。

IV ルーマニアの歴史と世界遺産について考えよう。(20)

● 紀元前後から現在のルーマニアの領域には、ローマ人が進出をはじめ、2世紀はじめにはローマ帝国の五賢帝（5人の優秀な皇帝）の一人であるトラヤヌスによって征服された。以後、ローマ人が大量に入植し、先住のダキア人と混血が進んだ。現在、ルーマニアで使われているルーマニア語は、ローマ人の言語の特徴が残っており、スラブ語派の言語が広く使われている東ヨーロッパでは珍しく、イタリア語やフランス語、スペイン語と同じラテン語派に属する。

● (a) 10～11世紀になると、現在のルーマニアの領域には三つの国が形成された。トランシルヴァニアはカルパティア・トランシルヴァニア山脈に囲まれた盆地状の地域に、モルドヴァはカルパティア山脈の東側に、ワラキアは現在の首都・ブカレストを含むドナウ川の平原地帯に形成された。このうち、トランシルヴァニアには隣国・ハンガリーやオーストリアの影響でキリスト教のカトリックの教えが伝わった。一方、モルドヴァ・ワラキアにはビザンツ帝国（首都はボスポラス海峡に面したコンスタンティノープル）の影響によってキリスト教の正教会の教えが伝わった。

● (b) 15～16世紀になると、モルドヴァとワラキアはイスラム教の大国・オスマン帝国（首都はかつてのコンスタンティノープルであったイスタンブール）に支配された。オスマン帝国は、支配地域の住民が納税など一定の義務を果たせば、信教の自由を保障した。一方、トランシルヴァニアはハンガリーやオーストリアの支配が続いた。ドイツ人の移住も活発で、そのなかでドイツ人・ルターなどによって進められた宗教改革によってカトリックから分岐したプロテスタントの教えも伝わった。

● 18世紀末のフランス革命はヨーロッパ諸国に大きな影響を与え、大国に支配されている少数民族の間には独立の気運が高まった。加えて、19世紀になるとオスマン帝国の衰退は明らかであり、ワラキアやモルドヴァでもオスマン帝国からの独立を求める運動が活発化した。19世紀後半にワラキアとモルドヴァを合わせた地域に(c) ルーマニア公国（のちに王国）が成立し、オスマン帝国からの独立が国際的に承認された。しかし、オスマン帝国支配下のバルカン半島には、ロシアとオーストリアに加え、イギリス、フランス、ドイツといった強国が影響力拡大をねらって進出したため、「ヨーロッパの火薬庫」とよばれる危険な状況が形成された。

● 1914年、「火薬庫」が爆発して第一次世界大戦が始まった。ルーマニアはオーストリア（ハンガリー）支配下のトランシルヴァニア併合をめざして、イギリス・フランスとともに協商国として参戦した。戦勝国となったルーマニアは、トランシルヴァニア・ベッサラビア（現在のモルドバ共和国）・ドブロジャ（ドナウ川河口）などの地方からなるルーマニア史上最大の領土（「(d) 大ルーマニア」）となった。

● 1939年、ドイツがポーランドに侵攻して第二次世界大戦が始まった。ルーマニアは最初、中立を宣言したが、ソ連のベッサラビア占領、ハンガリーのトランシルヴァニア占領に対処できなかった国王に対する批判が高まり、一時、ドイツの支援を受けたファシスト政治団体・鉄衛団が政権を握り、ドイツとともに枢軸国として参戦した。しかし、ソ連がルーマニアを侵攻すると、今度は連合国に鞍替えしてドイツと戦った。結果的に戦勝国となったルーマニアであったが、ハンガリーからトランシルヴァニアを奪還したものの、ベッサラビアはソ連に割譲（かつじょう、領土を譲り渡すこと）せざるを得なかった。また、政治的にはソ連の強力な指導の下、社会主義国になった。

問6 図5は、ルーマニアの国家・領土の変遷を模式的に表したもので、ア～エは、前ページのルーマニアの歴史を説明した文章中の下線部 a～d の時期のいずれかである。下線部 a～d の時期の国家・領土の状態を示したものをそれぞれ選んで答えよ。(8)

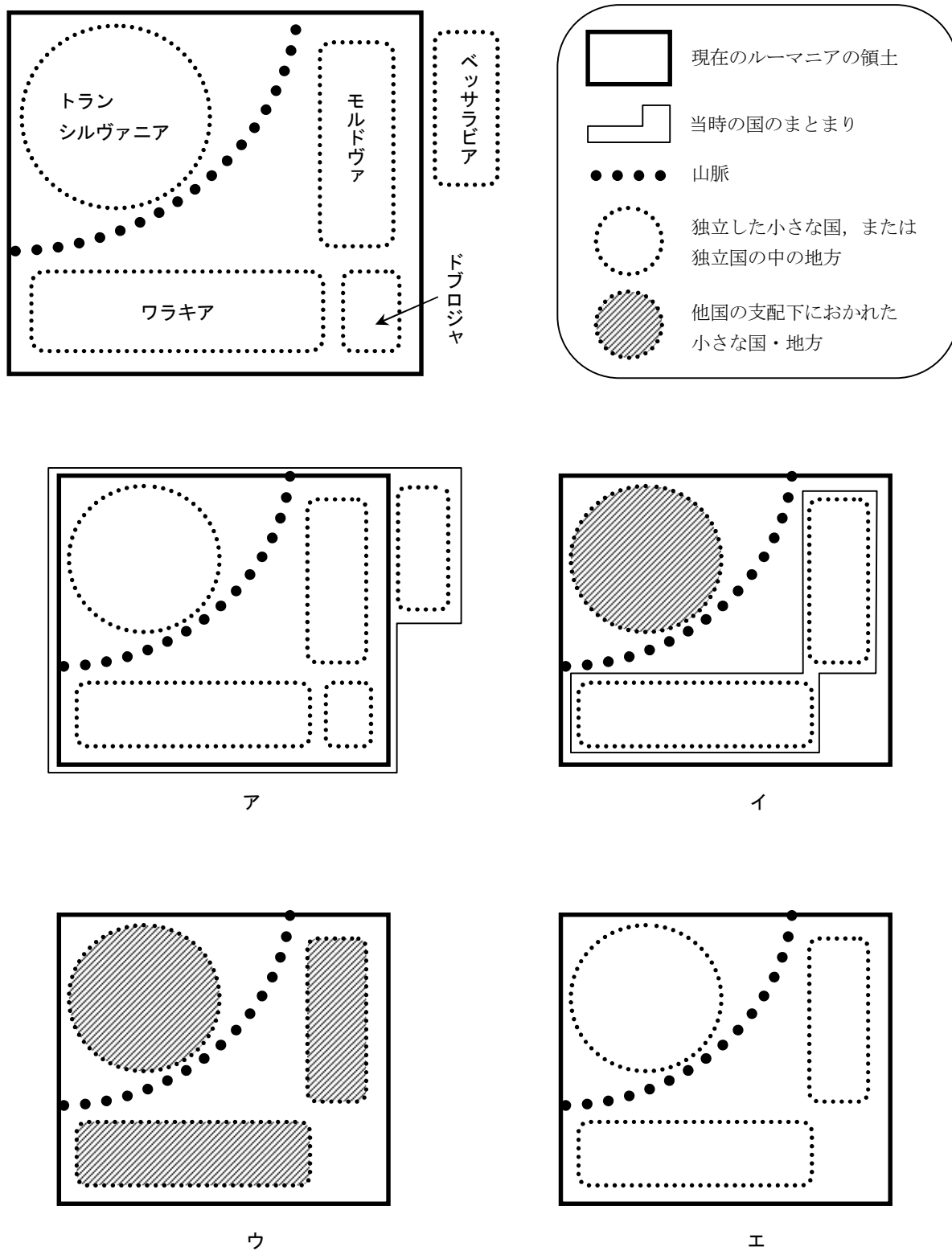


図5

問7 4 ページの図2中の要塞教会群は世界文化遺産に指定されている。「要塞」とあることから、当時の住民がオスマン帝国の侵略から身を守るためにつくったものである。オスマン帝国の進出方向を、7ページの文章も参考にしながら推察して図2中に青の矢印ではっきりと記入せよ。(4)

問8 7 ページのルーマニアの歴史を説明した文章をもとに、ルーマニアの民族（言語）、宗教、国の成り立ちについて3枚のカードにまとめた。空欄にあてはまる語句を、7ページの文章から抜き出してそれぞれ答えよ。(8)

 民族 (言語)	● ローマ人の入植により、先住の（ a ）人との混血が進んだ。彼らが現在のルーマニア人の直接的な祖先と考えられている。 ● ルーマニア語は、ローマ人の言語の特徴を残しているため、イタリア語などと同じ（ b ）語派に属している。
 宗教	● 10世紀以降、キリスト教が伝わった。 ● （ c ）が優勢だが、地方によって影響を受けた（支配された）国が異なるため、カトリックやプロテスタントの教会もみられる。
 国の成り立ち	● 長い間、オーストリアやハンガリー、イスラム教の大国である（ d ）帝国の支配を受けてきた。 ● 「ルーマニア」という名前の国は、19世紀後半になってはじめてできた。 ● 第二次世界大戦後は、ソ連の指導の下、社会主義国になった。

V ルーマニアとヨーロッパの現代社会の現状を考えよう。(6)

第二次世界大戦後、ルーマニアをはじめ東ヨーロッパ諸国は、ソ連の強力な指導の下で社会主義国になった。しかし、経済成長は遅々として進まず、西ドイツ、フランス、イギリスなどの西ヨーロッパ諸国（西側諸国）との経済格差は拡大していった。さらに、社会の平等をめざす社会主義といいながら独裁者を生み、言論の自由や反体制運動は徹底的に弾圧された。ルーマニアでは、1960年代にチャウシェスクが実権を握り、ルーマニアを長年にわたって支配した。

1989年のベルリンの壁崩壊に代表される東欧革命のフィナーレはルーマニアであった。民主化運動を弾圧したチャウシェスクは同年末に逮捕され、簡単な裁判のあと、ただちに処刑された。以降、ルーマニアをはじめ東欧諸国では、市場経済（資本主義経済）の導入と民主化が進められた。

多くの東ヨーロッパ諸国は、2000年代に(1)ヨーロッパ連合（EU）に加盟した。ヨーロッパ連合の域内（いきなり、加盟国内）では、人・物・金（かね）の移動が原則として自由である。そのため、(2)ドイツなどから賃金水準の低いルーマニアのような東ヨーロッパ諸国に工場が移転するとともに、逆に東ヨーロッパ諸国から賃金水準の高いドイツなどに移民としてわたる人も多い。近年、イギリスやフランス、そしてドイツでも低賃金で働く移民に対する反発が高まり、さらに工場の移転にともなう地域の産業の空洞化は、ヨーロッパ連合に対する人々の不満をかき立てている。こうした国民の不満を背景に、2020年1月31日23時をもってイギリスはヨーロッパ連合から脱退した。

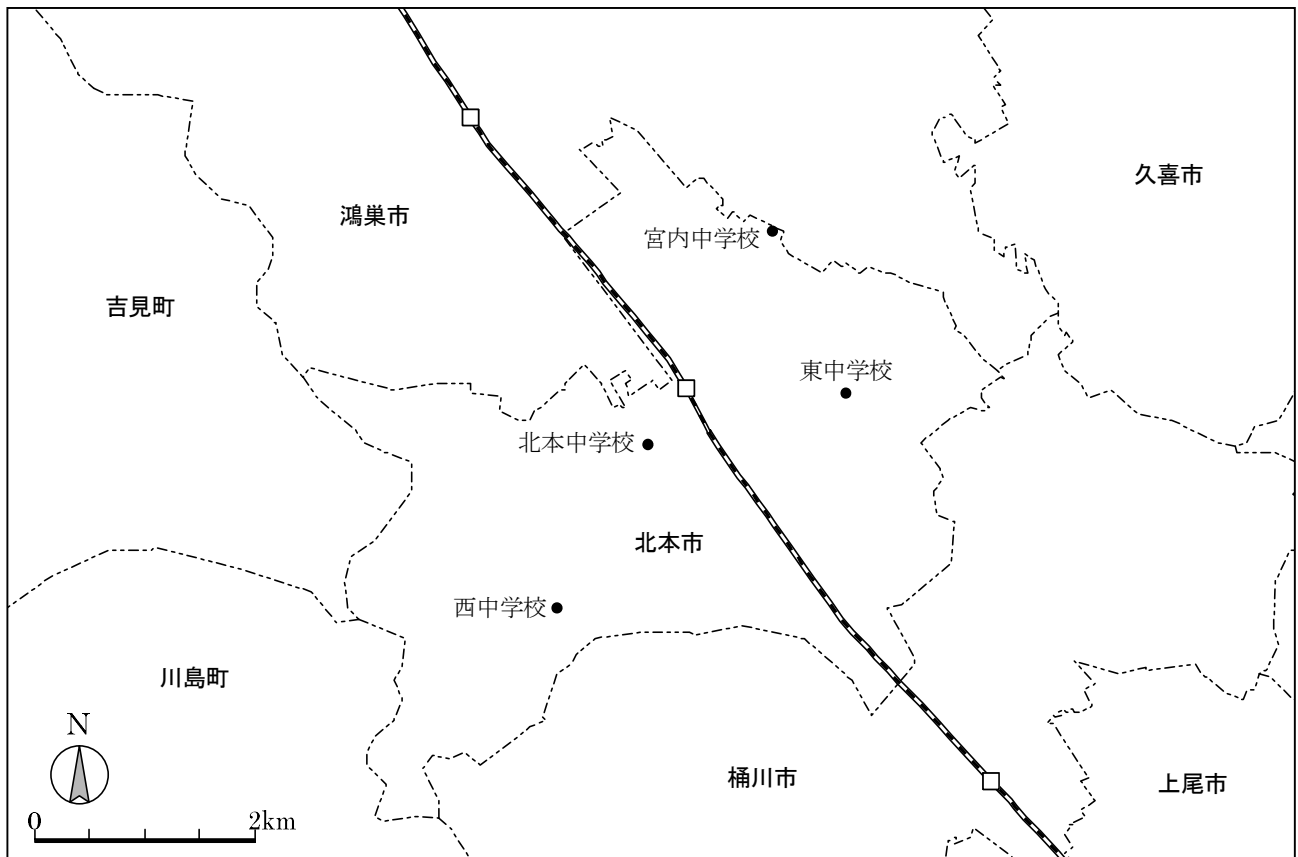
もともとヨーロッパ連合は、20世紀の二度の世界大戦でヨーロッパの国同士が二つの陣営にわかれて戦った反省に基づいて西ヨーロッパ諸国、とくにドイツとフランスが中心になって設立したものである。経済面での相互依存を強めることによって戦争を防ぎ、1993年にヨーロッパ共同体（EC）からヨーロッパ連合にかわってからは政治的な統合についても歩みを重ねてきた。2000年代には、東欧革命後に市場経済化・民主化を進めてきた東ヨーロッパ諸国が加盟し、名実ともに「一つのヨーロッパ」に近づいた矢先のイギリスの脱退は、ヨーロッパの統合に水を差すものとなった。さらに、昨年からのコロナ禍により、ヨーロッパ連合加盟国は相次いで国境を閉鎖した。今後、ヨーロッパがどのような道を歩んでいくのか注視していくことは、われわれ日本の未来を考える上でも重要である。

問9 下線部(1)に関して、ヨーロッパ連合設立の背景にある歴史上のできごとについて説明している部分を、35字以上40字以内でそのまま抜き出して答えよ。ただし、数字も1字と数えるものとする。(4)

問10 下線部(2)の原因は、ドイツとルーマニアの間の（ ）である。空欄にあてはまる語句を漢字4字で答えよ。(2)

第2問 地図と地理情報システム（GIS）に関する各問に答えよ。(28)

I 北本市立中学校の分布について考えよう。(16)



(北本市の資料などにより作成)

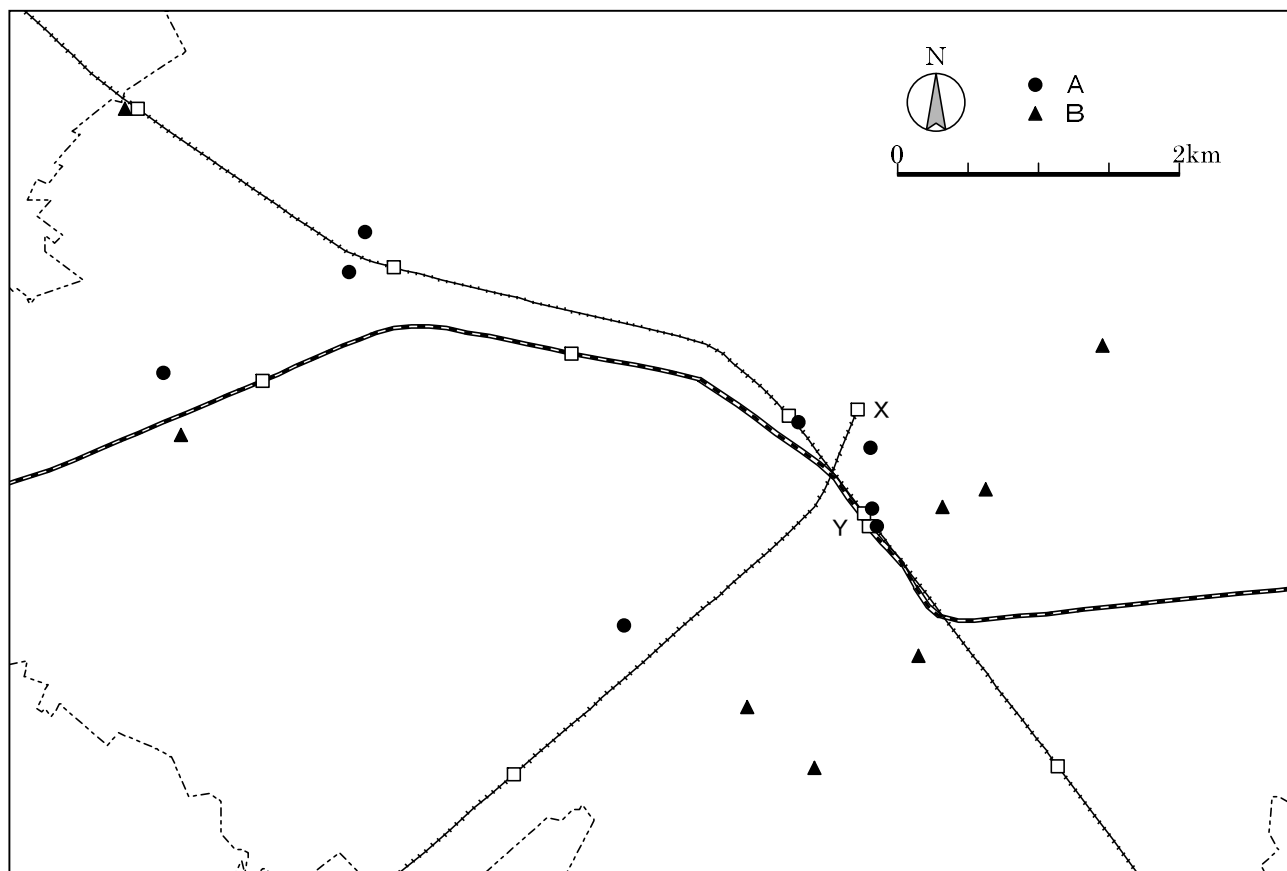
図1

問1 四つの中学校からそれぞれ半径 1.5km の円を図1中に記入せよ。(4)

問2 北本市で中学校の自由選択制が実施されているものと仮定する。(12)

- (i) 先の問1において、四つの円がすべて重なるエリアは存在しないが、三つの円が重なるエリアは存在する。この三つの円の中心にある中学校の名称をすべて答えよ。(4)
- (ii) 三つの円が重なるエリアを赤で塗りつぶせ。(4)
- (iii) 三つの円が重なるエリアが持つ意味について、3行以内の文章で答えよ。ただし、「中学校の自由選択制が実施されているならば」で始まる文章とし、さらに先の(i)で答えた中学校の名称をすべて用いることとする。(4)

Ⅱ 図2中の駅Yと東京副都心にあるターミナル駅は、北西から南東に走る私鉄線で最速 26 分で結ばれている。駅Yがある埼玉県内のある市のドラッグストアチェーンA・Bの分布から、二つのドラッグストアチェーンの異なるマーケティング戦略について考えよう。(12)



(注) 駅Yは駅を示す□が二つ重なり合って並んでいるが、これは JR 線と私鉄線が駅を設けているからであり、多くの利用者は一つの駅であると認識している。

(i タウンページにより作成)

図 2

問3 図2中の私鉄線の駅Xから直線距離で1km以内のエリアを考える。ただし、駅を示す□の中心からの距離とする。(8)

- (i) 駅Xから直線距離で1km以内のエリアを、図2中に記入せよ。(4)
- (ii) 先の(i)のエリアにあるドラッグストアチェーンA・Bの店舗数をそれぞれ答えよ。ただし、店舗を表す図形(●・▲)全体がエリアの内部にあるものを店舗数に数えるものとする。(4)

問4 ドラッグストアチェーンAのマーケティング戦略(店舗の立地とターゲットとする顧客)について、2行の文章で答えよ。(4)

第3問 国・首都・地形・都道府県・都道府県庁所在地の名称に関する各問に答えよ。なお、位置は問題冊子に挟んであるA4版の地図を用いて答えよ。(20)

問1 次の説明にあてはまる国の位置と国の名称をそれぞれ答えよ。(4)

- a. 福祉政策の手厚い国として知られるが、税金は非常に高い(高福祉高負担)。氷河湖が点在。ノーベル賞やダイナマイトの発明で有名なノーベルはこの国の生まれ。
- b. 世襲の首長が統治する七つの首長国からなる連邦国家。アブダビ首長国は豊富な石油資源。資源に乏しいドバイ首長国は金融・貿易・観光業を軸に発展。

問2 次の説明にあてはまる国の位置と首都の名称をそれぞれ答えよ。(4)

- a. 領土はマレー半島とカリマンタン島北部。イスラム教徒が多いがインド系や中国系も多い。首都周辺は東南アジアのIT産業の拠点。
- b. フランス人漁師が大西洋沿岸からセントローレンス川沿岸に進出。遅れてイギリスが進出。英語とフランス語が公用語。国旗はサトウカエデ。メープルシロップ。

問3 次の説明にあてはまる地形の位置と名称をそれぞれ答えよ。(4)

- a. ヒマラヤ山脈とクンルン山脈に挟まれた高原。独特の仏教文化が発展した。ラサはこの高原地帯の中心都市。(高原)
- b. 2004年に島の西側にある海溝を震源とする地震が発生。揺れと津波により大きな被害。津波被害はインド洋全域に拡大。オランダ植民地時代から油田開発。(島)

問4 次の説明にあてはまる都道府県の位置と名称をそれぞれ答えよ。(4)

- a. 佐野ラーメン、ぎょうざ、日光ゆば
- b. 松坂牛、桑名(くわな)の焼き蛤(はまぐり)、<赤福>

問5 次の説明にあてはまる都道府県庁の位置と名称をそれぞれ答えよ。(4)

- a. ミカン、鯛めし、鯛めん
- b. ずんだ餅、牛たん焼き、笹かまぼこ、<萩の月>

※ 問題終わり。

地理B 年次末考查解答用紙 (1)

第 1 問 (52)

[illegible]

第 2 問 (28)

問2	i		
	iii	中学校の自由選択制が実施されているならば	
(3行以内)			
問3	ii	A	B
* 完答4点			
問4			
(2行)			

- | | | |
|------|-----------|--|
| p.3 | () 点／4 点 | ルーマニアの 7 日移動平均の折れ線の続き (4 点) |
| p.4 | () 点／8 点 | 山脈の尾根 (2×2 点=4 点), オスマン帝国の進出方向の矢印 (4 点) |
| p.11 | () 点／8 点 | 半径 1.5km の円 (4×1 点=4 点), 三つの円の重なるエリア (4 点) |
| p.12 | () 点／4 点 | 駅 X から直線距離で 1km 以内のエリア (4 点) |

3年 () 組 () 番 氏名 ()

地理B 年次末考查解答用紙（2）

第3問 (20)

問1	a	記号:	国:	b	記号:	国:
問2	a	記号:	首都:	b	記号:	首都:
問3	a	記号:	高原:	b	記号:	島:
問4	a	記号:	都道府県:	b	記号:	都道府県:
問5	a	記号:	都道府県庁:	b	記号:	都道府県庁: